

愛の木 / Ai no ki

Maxwell Kennard

Publication Date

14-10-1900

License

This work is made available under a Exclusive rights in copyrighted work license and should only be used in accordance with that license.

**Citation for this work (American Psychological Association 7th edition)**

Kennard, M. (1900). 愛の木 / *Ai no ki* (Version 1). University of Notre Dame.  
<https://doi.org/10.7274/24731487.v1>

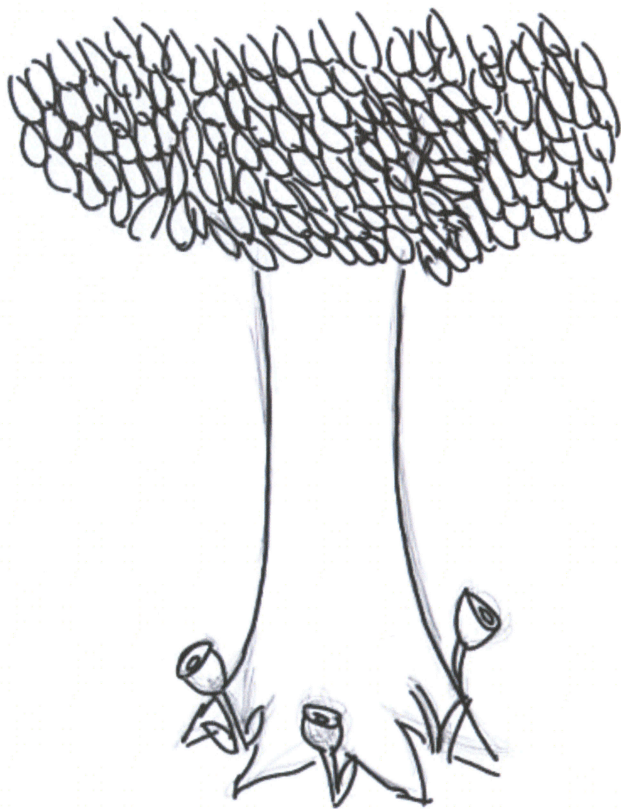
This work was downloaded from CurateND, the University of Notre Dame's institutional repository.

For more information about this work, to report or an issue, or to preserve and share your original work, please contact the CurateND team for assistance at [curate@nd.edu](mailto:curate@nd.edu).









あるところに、  
木<sup>き</sup>がありました。  
でも話<sup>はな</sup>しました。





そして、木<sup>き</sup>は背<sup>せ</sup>がひくい子<sup>こ</sup>が大好き<sup>だいす</sup>でした。

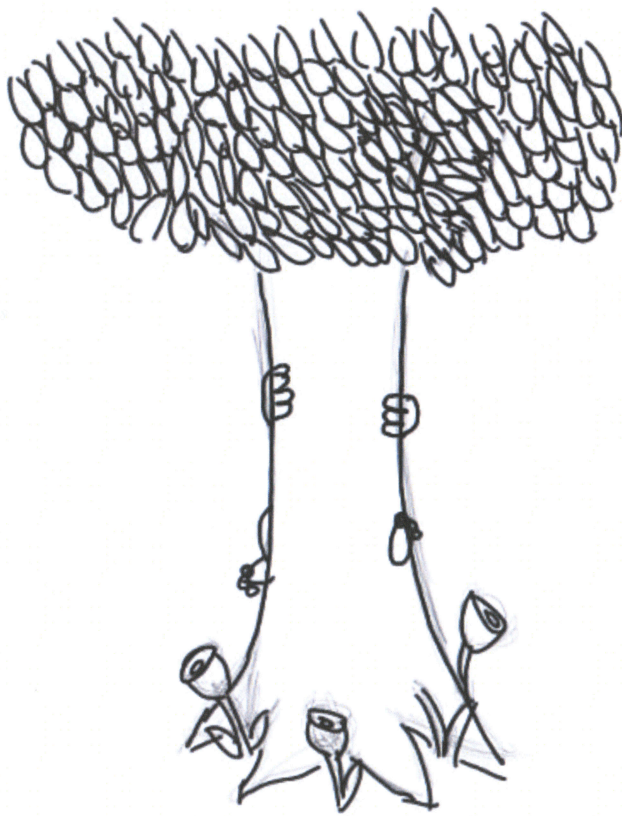


まいにち  
毎日、その子は来て、  
こき



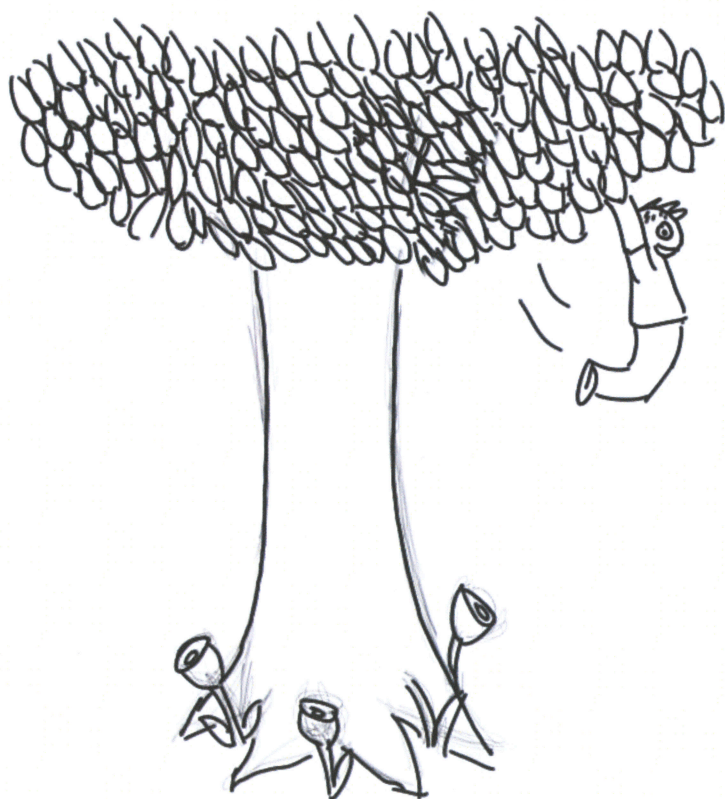
木の葉をとって、クラウンにして、森の王になつてあそびました。



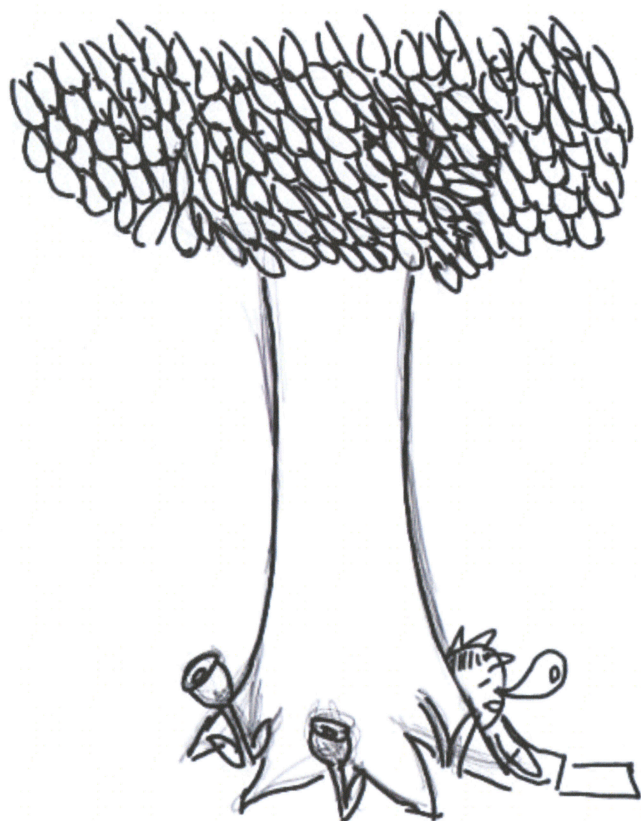


その子<sup>こ</sup>は木<sup>き</sup>の幹<sup>みき</sup>をのぼって、





木の枝（えだ）からスイングをしました。



ねむい<sup>とき</sup>時には木<sup>き</sup>の下<sup>した</sup>で寝<sup>ね</sup>ました。

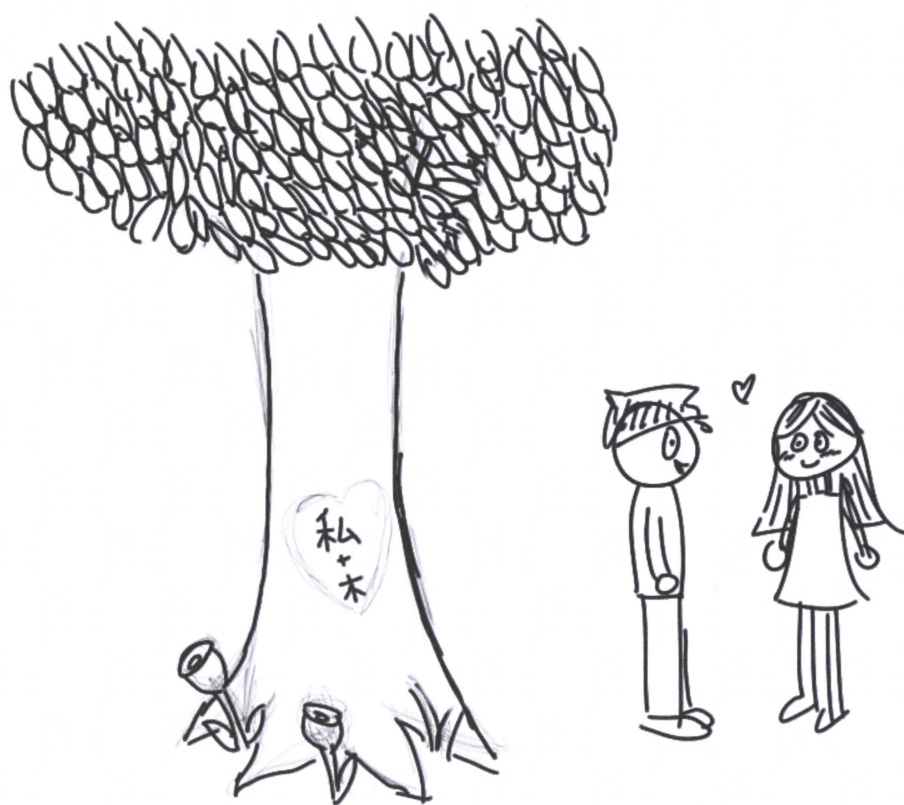




その子は木が大好きでした。。。。



とても。。。木<sup>き</sup>はうれしかった。



この時<sup>とき</sup>から、その子<sup>こ</sup>は大き<sup>おお</sup>くなりました。



そして、  
木<sup>き</sup>はよく一人<sup>ひとり</sup>だった。



ある日、その子は木へ来て、木は言いました、「木の幹をのぼって、木の枝から  
すいんぐをして、りんごを食べて、あそんで、うれしくなってください。」



「ぼくはおとなだから、あそばない。買<sup>か</sup>いもの<sup>い</sup>をしたい。お金<sup>かね</sup>がほしい。ぼくに  
お金<sup>かね</sup>をくれる？」その子<sup>こ</sup>は言<sup>い</sup>いました。

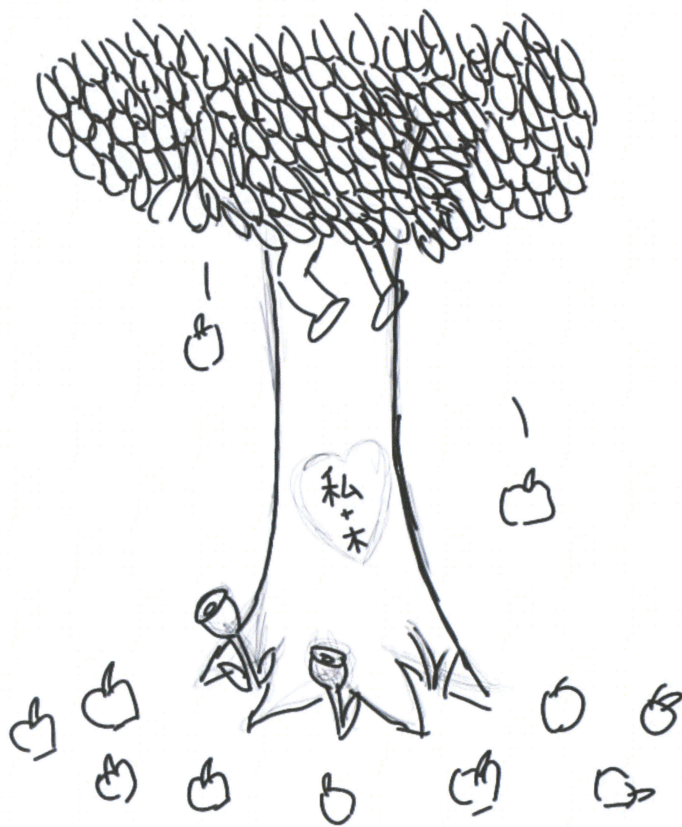


木<sup>き</sup>は言<sup>い</sup>いました、「すみません、ちよつと。。。お金<sup>かね</sup>がありません。でも、葉<sup>は</sup>とりんごはあります。りんごをとつて、町<sup>まち</sup>で売<sup>う</sup>ってください。そして、あなたは

金<sup>かね</sup>があつて、うれしくなります。」

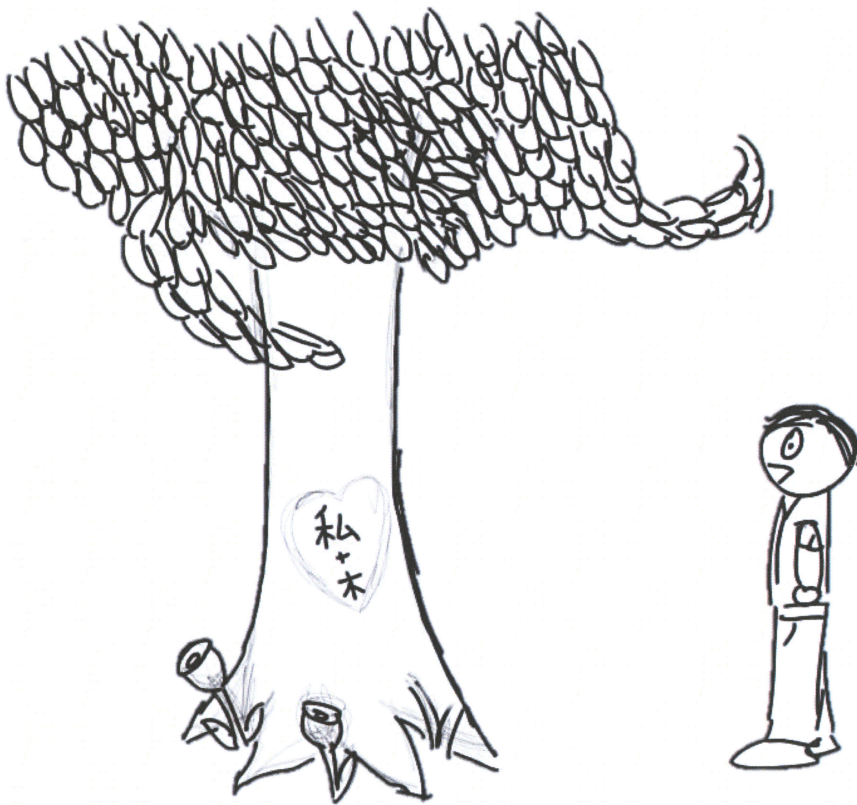


こ  
き  
み  
き  
子は木の幹をのぼって、ぜんぶりんごをとって、  
まち  
町へ行きました。木はうれしか  
ったです。



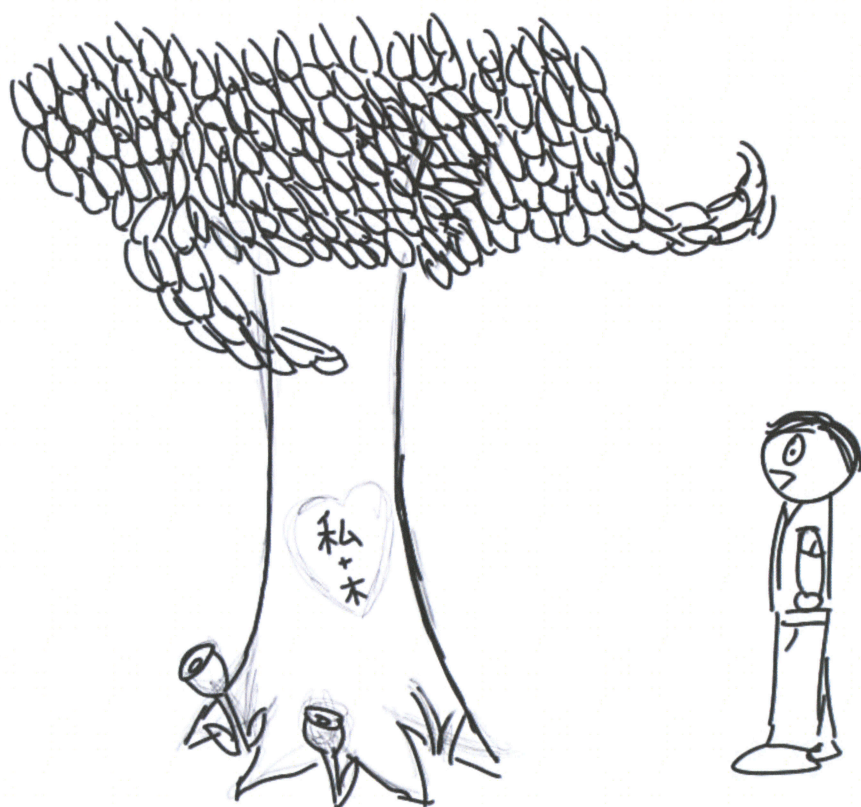


でも、木きとその子こはながい時間じかん会あいませんでした。そして、木きはかなしかったです。  
ある日ひ、その子こは帰かえって、木きはうれしく震ふるえました。「木きの幹みきをのぼって、木きの枝えだ  
からスイングすいんぐをして、りんごを食たべて、あそんで、うれしくなってください。」

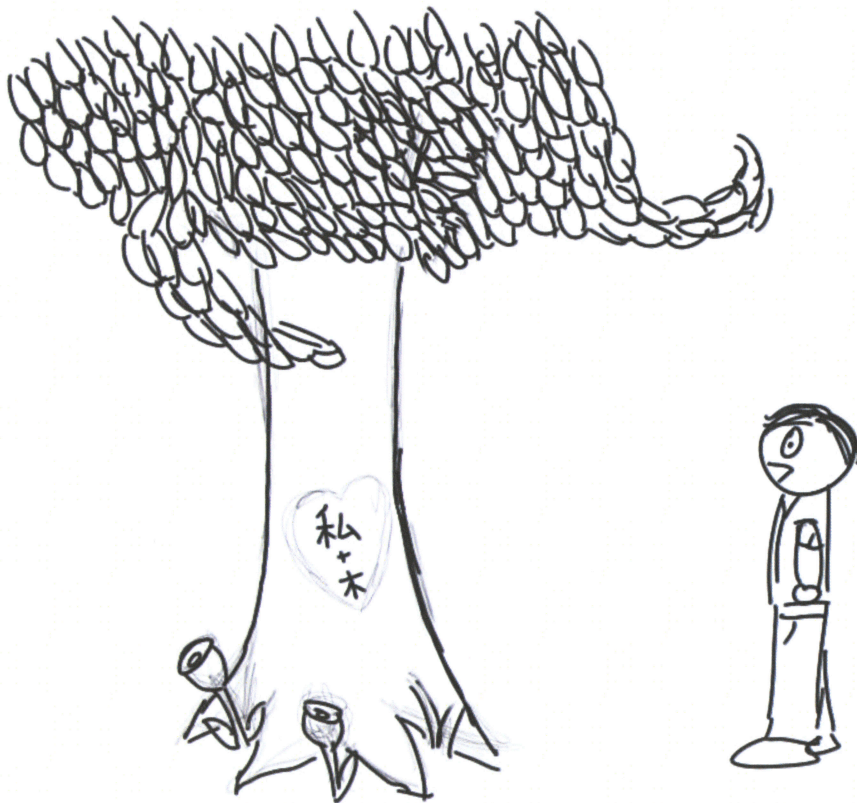


「ううん、いそがしいので、のぼらない」その子は言いました。「ぼく、温か  
くならないので、家がほしい。つまがほしくて、子供がほしいので、ぼく、家が

ほしい。木は家をくれるの？」



「家<sup>うち</sup>がありません。森<sup>もり</sup>は私<sup>わたし</sup>の家<sup>うち</sup>です。でも、あなたは私<sup>わたし</sup>のえだをきって、家<sup>うち</sup>を作<sup>つく</sup>って下<sup>くだ</sup>さい。そして、その後<sup>ご</sup>にうれしくなります」木<sup>き</sup>は言<sup>い</sup>いました。



その子は木のえだをきって、  
出かけて、  
家を作りました。





そして、木<sup>き</sup>はうれしかったです。でも、ながい時間会<sup>じかんあ</sup>いませんでした。そして、木<sup>き</sup>はかなしかったです。



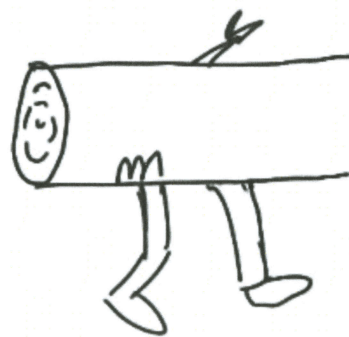
後で、その子は帰って、木はともうれしくて、話すのは大変でした。  
「ここにきて。ここであそんで下さい」木は小さい声で言いました。  
「ぼく、年をとってかなしいので、あそばない」子は言いました。「舟がほしくて、旅行をしたい。木は舟をくれるの？」



「私の幹をきって、舟を作ります。そして、舟にのって、旅行をして、あなた  
はうれしくなります」木は言いました。



そして、その子は木の幹をきって、舟を作って、舟にのりました。





木<sup>き</sup>はうれしくなりました。。。。でも、うれしくありませんでした。



ながい時間じかんの後あとで、その子こは帰かえりました。

「ごめんなさい」木きは言いいました。「今いま、何なにもあげません。私わたしのりんごはあり

ません。」

「ぼく、歯はがよわいので、りんごを食たべない」その子こは言いいました。

「私わたしの枝えだがないので、スイングをしません。」木きは言いいました。



「年をとったので、スイングをしない。」その子は言いました。

「私の幹がないので、のぼりません。」木は言いました。

「ぼく、疲れたので、のぼらない。」その子は言いました。



「すみません。あなたに何かあげたい。でも、何もありません。私は古い切り株だから、

ごめんなさい。」木は言いました。

「今、何もほしくない。とても疲れたので、しずかなところで座って（すわる）、ゆ

っくりしたい。」その子は言いました。

「そうですか」木は言いました。「古い切り株が一番いい座るところです。そして、一番いいゆっくりするところですよ。ここに、座って、ゆっくりしてください。」



木<sup>き</sup>はうれしくなりました。  
。  
。

